

地域側の視点

高齢者側の視点

		地域側の視点	高齢者側の視点		
		高齢者の高い能力と就業意欲を地域課題の解決のために活かすことはできるか。そのためにはどのような仕組み(対象となる高齢者を掘り起こす仕組み等)が求められるか。	高齢者が活躍できる場(高齢者をマンパワーとして必要としている地域の分野)はどのようなところにあるか。また、それをどのようにして掘り起こしているのか。	高齢者は退職後の社会参加活動に何を求めているか。とりわけ、就業という形での社会参加に何を求めているか。	地域に出て行くために高齢者自身がなすべきこと又は改善すべきことは何か。
ヒアリング団体	株式会社かい援隊本部	資格の有無で垣根を設けず幅広く人を集め、一人一人現実的な形で勧誘していく、共感していただくという方法で、人の集まりにくい介護分野に人を集める。 「共感登録者」を募集	・介護事業所・施設での仕事 ・現役世代だけでは埋められないシフトの対応	生き甲斐	若者の雇用を阻害しないような働き方
	多摩信用金庫	地域におけるプラットフォームの機会を提供していくことで、縦の連携ではなく、地域の横のつながりを作る必要。大企業にいたパフォーマンスのある方々を引き入れる仕組みを作りたい。 有料サークル／メーリングリスト	市役所・商工会議所が行っている、シニアが中小企業に行って課題解決をするという事業に、信用金庫が加わり企業を紹介することで、非常にうまく機能している。		
	全国シルバー人材センター事業協会	入会時の会員の能力や経験を把握するとともに、地域の協力を得て地域のニーズを把握して、それらに対応した就業先、職種の開拓をすることが必要。	(従来型事業) 剪定・除草の仕事が多い (企画提案型事業) 「教育」、「子育て」、「介護」、「環境」	就業することで高齢期の生きがいを充実させ、地域社会の活性化に寄与。 経済的理由で来ている方も多く懸念事項となっている。 入会動機 生きがい・社会参加:31.4%、仲間作り3.7%、時間的余裕12.2%、健康維持・増進:26.2%、経済的理由:22.5%、その他4.0%	屋内の仕事を希望する 希望職種以外の仕事をしたくない
	みなとしごと55	ハローワーク以外の働き口開拓のため、再就職支援のセミナーと合同の就職面接会を実施。開催前にはポスティングを行い、周知効果を高めている。 区として団塊シニアをサポートする指針が必要。 企業が高齢者の技術や経験、ノウハウを活動するように全体として変わっていかばいい	70歳以上の方を受け入れてもらえるのは清掃、調理補助、小さなレストランや飲食店の接客業務が大部分を占める。	ローンの残る方は、週3日、4日(1日5、6時間)の仕事ではもの足りない。 仕事を探しに来る人には、もう年金もあるがずっと家にいて元気なのは大変という方も多い→半分は有償のボランティアのような感じの仕事ができればいいのでは。 年金もいっぱいある人たちは短期の仕事ならいい、という人もいる。	

地域側の視点

高齢者側の視点

		地域側の視点	高齢者側の視点		
		高齢者の高い能力と就業意欲を地域課題の解決のために活かすことはできるか。そのためにはどのような仕組み(対象となる高齢者を掘り起こす仕組み等)が求められるか。	高齢者が活躍できる場(高齢者をマンパワーとして必要としている地域の分野)はどのようなところにあるか。また、それをどのようにして掘り起こしているのか。	高齢者は退職後の社会参加活動に何を求めているか。とりわけ、就業という形での社会参加に何を求めているか。	地域に出て行くために高齢者自身がなすべきこと又は改善すべきことは何か。
ヒアリング団体	NPO法人市民福祉団体全国協議会	高齢者の「自発性」「創造性」を喚起する政策への転換が求められている。 やりたい仕事を作らせて、それを応援するという仕組みに大きく転換する必要がある。 高齢の方に個人資産が集まっているため、そこからお金を吐き出させてマーケットを作り、そこに雇用を作るべき。 事業を始めたい高齢者に対しイロハを教える場がない。 「地域福祉民間センター」の設置と高齢者のパッションを引き出し地域課題を解決する能力をもつコーディネーターの配置 コミュニティービジネスの立ち上げのための講座	移動サービス 便利屋 コミュニティーカフェ		
	東京大学高齢社会総合研究機構(柏市豊四季台プロジェクト)	高齢者の雇用拡大、セカンドライフの生き甲斐を実現する、それを コーディネートする中間組織の存在が非常に重要 。 中間支援組織の重要なポイント ①事業開拓 ②能力と仕事の質に合ったマッチングをどう行うか ③紹介した後の支援 ワークシェアリングしてフレキシブルなのが重要。元気な人と弱っている人が組んで穴をあけない仕組みが作れるのでは。 地域に活躍場所を設ける 現役世代から慣れ親しんだ生活スタイル 帰属意識、社会的役割が明確に与えられること 無理なく、できる範囲で働くこと 地域貢献、趣味を活かす、人との関わりを求めること 就労セミナー を通じて高齢者を募集	「農」「食」「保育」「生活支援・福祉」 高齢者はばらつきが大きく、就労のニーズが多様。 コーディネーターが地域ニーズを掘り起こしている。		・企業内研修や生涯学習の場を通じてセカンドライフの就労を促すことも必要 ・高校・大学の高等教育を含め、できるだけ若い段階から人生90年のライフデザインを促す取組も必要 ・過去の職歴(役職等)からの解脱
	NPO法人たすけあい平田	制度の枠にとらわれず、住民同士がお互いさまの感覚で生活全体を支え合う。 活動を継続させるために、多くが会員制と有償性の仕組みをとっている。利用者が費用負担があることで、必要なときに気兼ねなくサービスを受けることができる。	自立支援、身体障害者へのサービスやたすけあい活動へのサービスは高齢者の割合が非常に高くなっている。	退職後の収入補填 生き甲斐づくり、社会参加	
第1回検討会	フリーディスカッション ・江戸川区「総合人生大学」、リタイアされた方々が 地域デビューするきっかけ に。2学年の期間設定をしているため、通学者が自然とグループになり、卒業後の取り組みを話し合っている。(原野江戸川区福祉部長) ・待ちの姿勢ではなく、奥さんを通じて旦那さんを引っ張り出す、友人同士、同じ企業や学校の出身者、といったつながりをキーにする(矢田課長)	・弱くなっていく高齢者を支える高齢者が必要(志藤ILC事務局長) ・子育てや高齢者向けビジネス(民間での対応が増加している)。防災・防犯分野はプライオリティが高く、公共サービスとして意識されている。(長島多摩信金事業部長)		・自助努力で、地域の中で好かれずとも嫌われない人として認識される努力も必要では。「エイジング・イン・プレイス」の考え方。(志藤ILC事務局長) 「地域での社会的役割を持つきっかけとして「働く」ことを切り口にしては(澤岡主任研究員)	